

令和6年度 第1回大月みらい協議会 会議概要

日 時：令和6年6月7日（金）19時00分～20時30分

場 所：大月市立大月短期大学 L号館1階 会議室

出席委員：白川恵子、白川太、中島啓介、竹下文仁、山口隆太郎、桑原駿（敬称略）

事務局：杉本課長、上條地域活性化担当リーダー、石丸主事、福嶋主事補

1 開会（司会：杉本課長）

今年度から着任された竹下委員と桑原委員からあいさつをいただきました。

2 市長あいさつ（大月市長 小林信保）

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

本市では、「第2期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、令和2年3月に策定し、3年が経過しました。今年度は最終年度となっており、並行して第3期の策定を行っていくこととしています。

上位計画であります総合計画については、令和6年3月に第8次総合計画が策定されており、基本構想を12年間の期間として、前期計画を令和6年度から令和9年度、中期計画を10年度から13年度、後期計画を14年度から17年度とすることとしています。

次期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、令和7年4月から3年間を計画期間として、計画策定についてもご意見等を頂きたいと考えております。

みらい協議会の委員の皆さまにつきましては、総合戦略の外部評価委員として効果検証を行っていただく大事な役割としてお願いをしているところであります。グループ活動で行っているふるさと教育活動については、第3期に併せ、所管を関係課に移して継続していきたいと考えております。

第3期のみらい協議会においては、計画における内容について、具体的に人口減少問題をどう解決していくか、どんな取り組みを行っていく必要があるかなどの意見や手法をご提案いただき、議論していければと考えております。

第3期に向け、皆さまの知人・ご友人などで一緒に人口減少問題に対する取り組みなどの課題について、議論に加わっていただける方がいらっしゃいましたらご紹介いただき、この会がさらに活発な議論の場として行けたらと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

3 議長あいさつ（中島啓介議長）

皆さんこんばんは。本日初めて出席された竹下委員、桑原委員におかれましては、改めてご出席いただきありがとうございます。

このみらい協議会は、先ほど市長からもありましたが、大月市の総合戦略の人口減少対策に関しての外部評価をすることが一番重要な役割となっております。さらにそれだけではなく、みらい協議会の委員でグループを作り、地元に着愛を持ってもらうようなふるさと教育の取り組みや、広報おおつきで「大月仕事人」という大月市で仕事人として活躍する方を取材し、紹介するような活動を行ってきました。

今年度は新しい総合戦略の策定に向け、提言をする役割を仰せつかりましたので、大月のことに対して熱を持った方々をぜひ推薦していただいて、市長との意見交換を踏まえながら、この会議をより活発にしていきたいと考えておりますので皆様のご協力をお願いしたいと思います。

4 議事

議事（１）令和５年度第４回会議概要について

（進行：中島啓介議長）

それでは、議事に入ります。「議事（１）令和５年度第４回会議概要について」事務局から説明をお願いします。

（事務局：福嶋）

【資料１】令和５年度第４回会議概要をご覧ください。

前回の会議では、議事（１）において令和５年度第３回会議概要の公表について承認されました。

議事（２）では、委員の皆様からいただいた総合戦略へのご意見に対して市の考え方、方向性をご報告しました。

議事（３）では、事務局から令和６年度のみらい協議会の体制や方向性、予定をお伝えしました。

こちらの内容を市ホームページに掲載したいと考えておりますので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

また、【資料２】議事録につきましてはご一読いただき、修正等がございましたらご意見を頂けたらと思います。

【質問・意見等】 なし

議事（２）第３期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

（進行：中島啓介議長）

次に「議事（２）第３期大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」です。事務局から説明をお願いします。

（事務局：上條）

改めまして、本日はご出席いただきありがとうございます。資料3をご覧ください。先ほど挨拶の中で市長や議長からもご説明がありましたが、これまでの総合戦略の経緯の資料を用意させていただきました。

このみらい協議会の正式名称は「大月市人口問題地域活性化を考える市民会議」という名称で、平成27年1月に第1期が発足しております。発足した理由は平成26年に当時の総務大臣が座長を務める日本創生会議の中で、30年後の日本の人口を推計したところ、このままでは消滅するというような自治体があることを市町村に提言しました。それを受けて、人口減少問題に特化した市民会議ということで、大月総合戦略が策定されみらい協議が発足しました。

今年度は第2期の最終取りまとめの時期であり、それと並行して第3期の策定を進めるというような状況であります。

次に資料4をご覧ください。資料4はふるさと学童グループ、JOBグループ、情報発信グループの活動を、今後どのような形で進めていくかを表したものとなります。今年度は、今までの活動を引き続き進めていきますが、令和7年4月以降は、みらい協議会が直接担うのではなく、職業講話をしていただく企業の紹介などをお願いしたいと思っております。今年度は第3期を策定する業務も増えてきますので、第2期の外部評価に加えて第3期の策定にも注力をしていただきたいと思います。

次に資料5をご覧ください。こちらは第2期を策定した時の一部資料になっております。このような形で皆さまからのご提案や意見をいただき、進めていきたいと考えております。

次に資料の6をご覧ください。こちら第2期の総合戦略を策定する際のスケジュールになっております。前回ですと、11月の中旬に計画のベースを策定して皆さんにお示ししましたが、第3期については本日の会議から、皆さんから具体的な意見をいただき、6月から動き出し、意見を集約しながら11月頃に計画のベースを皆さんにお示ししたいと考えております。

本日は市長も会議に参加していただき、第3期策定に向け基本目標や具体的な取り組み施策や取り組み事業及び総合戦略に基づき実施する定住促進対策事業等についてもご意見を伺いたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。説明は以上です。

【質問・意見等】

(竹下文仁委員)

大月市の特徴を生かした施策を推進していく、例えば現在大月市で取り組んでいるe-sportsに特化し、注力するというのもいいかなと思います。

(白川太委員)

大月市がこういう町になるんだというビジョンが必要だと思います。その一つの例としてe-sportsや農業があって、そこにみんなで向かっていくということが戦略にとっては大事ではないかと思います。

(小林信保市長)

今年3月に総合計画の改定が完了しましたが、その時も大月市の特徴を出したいということで3つの重点項目を作りました。産業、子育て、コミュニティとしましたが、それでもまだ総合計画では特徴を出し切れていないのかなと感じています。総合戦略で特徴のようなものをわかりやすく示せたらと思います。

(白川恵子委員)

大月市では何に特化するのか、大月市では何ができるのかというところを議論して考えていくべきだと思います。他の都市に比べて大月市は農地が少ないので、農業は難しいのかなと思います。委員の中には製造業の方もいらっしゃるの、それもいいですし、e-sports もいいと思います。

(山口隆太郎副議長)

先日の e-sports の会議に参加してみて、若者を大月の外から集め、大月が注目を集めるといった点では有効な手段だと感じました。

(桑原駿委員)

まんべんなく平均的にやることも必要だと思いますが、東京から近いことなどを前面に出した方が雇用の創出にもつながると思います。例えば大きな物流の倉庫を誘致すれば、それだけで雇用が生まれます。

青年会議所には、大月は農作物の生産地としては向いていない部分もありますが、東京に近いという利点を生かして頑張っているメンバーもいます。

何かに特化することが大事だと思います。

(小林信保市長)

総合計画には「人と自然をいかし、希望のもてる未来をみんなで実現していくまち」と書きましたが、自然をいかす、その中でも大月は何を有効な資源として捉えて、具体的に何をやるかを議論していけたらと思います。

(中島啓介議長)

行政としてどうしてもやらなければならないことがたくさんあるとは思いますが、それを踏まえた上で情報の発信力が重要かと考えます。

(小林信保市長)

情報発信はもちろん重要なことではあります。人口減少対策に取り組む際のツールとしては欠かせないと思います。

人口減少対策として一番大切なのは一人ひとりの収入を増やすことだと思っています。子育てしやすくなる条件の一つだと考えます。大月市では晩婚化と、収入が低いというところが大きな課題かなと思っています。

(竹下文仁委員)

あれもこれもやろうとすると平均以下になってしまう可能性があります。大月市の資源や特徴を生かして人口減少の対策のために具体的に何に取り組むのか議論していくことが必要だと思います。

(白川太委員)

人口減少について、他の市町村と競争することや、企業を誘致して一時的に手っ取り早く増やすのではなく、まずは減ることを止めていくような、継続的に長期的に取り組んで結果が後からついてくるようなことが大事かと思います。

しかしそれは市長の評価に繋がるのかというと、何年も先のことになるので繋がらない。

(中島啓介議長)

子どもたちに大月への愛着を持ってもらい、なるべく東京へ出ていかないようにしてもらうために、ふるさと教育のようなものは続けていくべきだと思います。

(小林信保市長)

ふるさと教育はこれからももちろん続けていくし、それはこれから芽が出てくると思っています。

(白川太委員)

先ほど「農業」というお話があったが、例えば農業の何々で日本一になろうというビジョンを出す際に、農業をやっている人たちだけで考えてしまうと難しいと思います。農業以外の分野において、農業のために工業的にこういうものができますよ、農業のために林業としてこういうことができますよ、農業が活性化するための商業というような、町全体が農業という、同じ方向を向くようなことが大事だと思います。それが農業であっても環境であってもいいので、何かこんなもので日本一になろうというものがあってもいいのではないのでしょうか。

大月のような田舎ではデジタル技術を活用し、5Gや6Gに対応して農業で行きましょうというのもいいと思います。

(小林信保市長)

現在取り組んでいるe-sportsは、デジタル化に向けた一つのステップとして取り組んでおり、デジタルというものの大切さも感じています。

そうしましたら、大月で何に力を入れるかを今後議論していきたいとしたいと思います。会議の進め方についても、事務局の企画財政課もこの会議の輪に入って進めていけたらいいと思います。

(白川恵子委員)

秋田県のある村で人口が何十年も変わらない村があります。その村は昔から米の生産地として有名で、お米農家の人亡くなくても後継者がいて、子どもたちが村から出て戻ってきて米の生産や農地を拡大している。何がそこまでこうさせているのか。歴代の村長たちはこの村の米をどうしていくのかを常に考えてきたのだろうなと思ったとき、大月もそういう市長であってほしいなと思いました。今の大月の基幹って何だろうと考え、そのために自分は何をすることかということ聞かせてもらい、私たちがそれにプラスアルファの考えをしていくことで戦略的なものができるのかなと思います。

市長として大月市をこういう市にしたいというものを明確に打ち出してそれを聞いた上で議論ができればなと思います。

(小林信保市長)

ありがとうございます。それでは次回の会議のお題としてこんなまちにしたいというのを示し、意見をいただくということによろしいでしょうか。

(白川太委員)

市長にも示していただきますが、委員それぞれが私はこういう町にしたいという意見を出し合うのはいかがでしょうか。

(小林信保市長)

私の根本的な考え方として、首長としてのカラーは出してはいけないというものがあります。あまり自分の色がでてしまうと次の市長がそうじゃないと言ったらまた違う方向を向いてしまう気がします。私が e-sports をやりたい、では30年間ずっとこれで行くのかといたら、市長が変わったときは別の方向になってしまう気がします。

(白川太委員)

ビジョンありきでいいと思います。それを実行するために30年間市長でいればいいと思います。方向性が間違えていなければ、ずっとその方向で行くのだと思います。

(小林信保市長)

ありがとうございます。もう少し議論が必要だと思うので、先ほどあったように、自分はこういうまちにしたいというものを出し合うために考えてきていただきたいです。

(中島啓介議長)

では次回は委員の皆さんがそれぞれこういうまちにしたいというようなビジョンをお話しいただくという形をとりたいと思います。

今後の会議についてですが、8月中旬あたりまでに一度市へみらい協議会としての提言をしたいと考えていますので、7月8月に集中的に開催したいと思います。また事務局から皆さんの日程調整をしますのでよろしくお願いします。

議事（3）その他

【議事・質問・意見等】 なし

5 閉会